

## 令和7年度 浅羽学園笠原小学校 学校経営構想

校訓	「強い子 明るい子 考える子」
重点目標	「学び合い 認め合い 挑戦する笠原っ子」
学校経営目標	「一人一人が輝く 学校づくり」

### 楽しい学校をつくる

本校教職員には、「楽しい学校」にすることを「子ども起点の教育」として、最優先で考えてほしい。楽しい学校が、子どもも教職員も幸せ（ウェルビーイング）にする。

「楽しい学校」につながるのが、校訓の中の「明るい子」である。学校が楽しくなり、明るい子が増えれば、重点目標の「学び合い 認め合い 挑戦する笠原っ子」の姿が自ずと実現されていくだろう。「明るい子」は、教職員や友達から大切にされ、励まされている子でもある。P B S (ポジティブな行動支援)には、浅羽学園全体で取り組んでいく。

「こんなこといいな できたらいいな」を子どもと教職員が共有し、学校が楽しくなるための仕掛けを考え、子どもたちにやらせてみて、認め、励ますことで主体性を育てていく。学校経営目標の「一人一人が輝いている」姿は、子どもの笑顔の量と質で見える化する。校長として「楽しい学校」や「明るい子」を本校の魅力や価値として、積極的に学校ホームページで情報発信し続けていく。

【学校評価の指標の目標値】「学校が楽しい」に「そう思う」と答える子 前年比1割増

### 笠原小ならではのインクルーシブ教育

静岡県内には、児童養護施設が14か所ある。(県西部には、浜松市に3、袋井市に1)袋井市の「まきばの家」からは、8名の児童が本校に通学する予定である。児童養護施設や児童相談所とこれほど連携をとる小学校は、稀である。さまざまな成育歴を抱え、親と離れて生活し、本校に通ってくる子どもたちに思いを寄せ、「誰一人取り残さない」支援を実現すべく、寄り添っていくことが本校教職員には求められる。

立地上の特性や小規模校の強みを生かした人権や差別に配慮した指導や取り組みを、「笠原小ならではのインクルーシブ教育」として位置付け、継続していく。令和6年度に見直した「いじめ防止基本方針」をもとに、校内でのいじめや対人トラブルを減らすように早期発見、早期対応を行う。

【学校評価の指標の目標値】「信頼できる先生がいる。」の項目で「そう思う」と答える児童と保護者の割合の前年比1割増

### 令和の「<sup>こと</sup>鼓濤教育」 — 地域学習を核として —

「鼓濤教育」という言葉は、昭和50年に開校百周年に合わせて発表された「鼓濤教育原論」という小冊子から始まっている。「鼓濤教育原論」は、— 公立学校における長期の教育計画はいかにして可能か — という壮大なテーマのもとに執筆された。未完のため、詳細を知ることはできないが、教師・児童、生徒、父母の幸福享受に寄与するものを目指していたのだと察せられる。地域学校協働推進活動が進められる今、「鼓濤教育」を笠原地区とともにある笠原小学校の教育として再定義し、令和の「鼓濤教育」として理念や進め方を

教職員と地域住民で、以下のように共有していく。

**「笠原に親しみ、笠原を自慢できる子」の育成をめざし、自然、文化、歴史、産業、防災等の地域学習を位置付け、地域人材との交流をさらに深める。地域を知り、調べ、まとめ、発信する探究学習を進める。キャリア教育の中でより良い生き方を考えさせ、笠原を愛し、未来の笠原を支える人材を輩出する。**

大人になっても笠原が好きで住み続ける子、笠原を離れても笠原に思いを寄せられる子、未来の笠原を創り支える子を小学校から育てようと思う。笠原のことを学び、笠原に愛着をもち、これからの笠原を考える地域学習を探究学習の核とする。そのために、もっと地域人材を学習に取り込んで、つながりを深めていく。

## 小規模校としての強みを生かした小回りの利く学校経営

### 【強み1】働き方

昨年度、本校は市内小中学校の中で、最も超過勤務時間が少なく、理想的な働き方が達成されていた。本年度の重点は、ペーパーレス化の推進である。働きやすさを教職のやりがいや誇りにつなげ、子どもたちにも教職の魅力を伝えてほしい。

### 【強み2】同僚性の高い職員集団

教職員も子どもと同様に、学び合い、認め合い、挑戦することで集団としての質を高めていく。校内でのOJTによる人材育成、サポート体制で、皆が共にキャリアアップできるようにする。日ごろのコミュニケーションを密にし、会議の時間と回数を減らす。

### 【強み3】豊かな体験活動

市のマイクロバスを活用して積極的に校外学習を行い、豊かな体験活動を実現する。

## 少人数化、暑さ、安心安全への対応

### 【課題1】少人数化

子どもたちは、学級編成のない学級集団の中で育つ。令和7年度は全ての学年が25人以下となる。固定化された人間関係の中での序列化、競争心の低下、対人トラブルの増加が、高学年になるほど顕著になる傾向がある。そこで、ペア学年や縦割りでの活動を意図的に計画し、人間関係を活性化する。

教師は、学年事務、生徒指導や問題行動への対応を一人で行わなくてはならず、担任の負担が大きい。そこで、低・中・高の学年団担任制とする。

### 【課題2】暑さ

サマータイムの日課、酷暑に対応した教育課程を導入する。体育、家庭科、図工等の年間指導計画を見直し、熱中症の心配がある時期の学習内容や学習場所を考慮する。

### 【課題3】安心安全

本校は、校地の北側と西側に土砂災害警戒区域を抱えている。高台にあるため、津波の心配は低いですが、大雨や地震での土砂崩れや地割れ等が起きる可能性がある。地質図を見ると、本校は、小笠山を形作る「小笠層群」の地盤ではなく、三沢川が作った河岸段丘の堆積層の上にある。軟弱地盤ではないが、砂礫の層であり、急崖の部分は意外にもろく崩れやすいので、注意が必要である。減災のため、通学路の変更も検討していく。